

1 この科目の構成について

教科	地歴公民	科目	歴史総合	単位	2 単位
対象コース	一貫	コース	対象クラス	1 年	1 組
使用教科書	詳述歴史総合（実教出版）				
使用副教材	詳述歴史総合 マイノート 新課程版（実教出版）				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

国際関係から社会の編成、日常生活の具体的な姿や生産のあり方のなかから、世界と日本の歴史的なつながりを学ぶ。この過程は、「他者」の発見「他者」への共感、「他者」との共生の歴史を学ぶということでもある。このとき、「問い」を立てるという姿勢が大切である。「答え」を学ぶのではなく、歴史に向かって問いかける姿勢を身につけて欲しい。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業でパワーポイントを用いて説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、歴史の流れを把握することが大切です。板書事項や重要語句を正確にワークノートに記述することが求められます。

(2) 家庭

ワークノートは、教科書に準拠して作成してあります。予習として教科書の太文字を中心に目を通してきて下さい。家庭では地図や年表と照らし合わせることで、より深く近代史を学習することができます。また、テレビや新聞など各種の情報源がありますので、それらを活用することで知識の幅が広がり、深さも増すことでしょう。もし可能であればインターネット等を活用することもよいでしょう。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価 規準 (内容の まとめ ごと)	A 歴史の扉 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。	近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。	歴史の扉について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。
	B 近代化と私たち 18世紀アジアの社会経済、工業化と世界市場の形成、立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容、そして現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解している。	18世紀アジアの社会経済、工業化と世界市場の形成、立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容、現代的な諸課題の形成に関わる近代史について、諸事象の背景や原因、結果や影響を関連づけ多面的・多角的な考察・表現をしている。	近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。
	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち 総力戦と第一次対戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の拡大、国際協調体制の動揺、第二次対戦後の国際秩序と日本の国際社会復帰、そして現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。	総力戦と第一次対戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の拡大、国際協調体制の動揺、第二次対戦後の国際秩序と日本の国際社会復帰、そして現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について、諸事象の背景や原因、結果や影響を関連づけ多面的・多角的な考察・表現をしている。	国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。
	D グローバル化と私たち 国際政治の変容、世界経済の拡大と経済成長下の日本社会、市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題、そして現代的な諸課題について歴史的経緯を踏まえ理解している。	国際政治の変容、世界経済の拡大と経済成長下の日本社会、市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題、現代的な諸課題について、諸事象の背景や原因、結果や影響を関連づけ多面的・多角的な考察・表現をしている。	グローバル化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。
評価 方法	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	4	12東方問題と19世紀のロシア	・ロシアの南下政策に対し、ヨーロッパ諸国がどのような対応をとったのかについて考える。	●	●	
		13アメリカの発展と分裂	・領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのか、独立後のアメリカ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争について考える。 ・ラテンアメリカの独立について考える。	●		●
		14世界市場の形成	・産業革命の進展により、パクス＝ブリタニカが形成され世界の緊密化がもたらされたことについて考える。	●		●
		第3章 アジアの変容と日本の近代化				
	5	15イスラーム世界の改革と再編	・イスラーム世界がヨーロッパ諸国の進出に対しどのように対応したのかについて、考える。	●	●	
		16南アジア・東南アジアの改革と再編	・ヨーロッパ諸国が南アジアや東南アジアにどのように進出したのかについて、考える。	●		●
		17アヘン戦争の衝撃	・アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応をせまられたのか考える。 ・アヘン戦争とインド大反乱について考える。 ・日本の開国とその影響について考える。	●		●
			【第1回考査】			
	6	第4章 帝国主義の時代				
		26帝国主義と世界分割	・欧米諸国の帝国主義により、世界がどのように分割されたのかについて考える。 ・アフリカと太平洋の分割について考える。	●	●	●
		27帝国主義期の欧米社会	・19世紀後半から20世紀はじめにかけての欧米社会で生じた変化について、考える。	●		
		32アジア諸民族の独立運動・立憲革命	・20世紀はじめにアジア各地でおこった運動の共通点と相違点について、考える。			
			【第2回考査】			
	7	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち				
		第5章 第一次世界大戦と大衆社会				
		33緊迫する国際関係	・第一次世界大戦が世界を巻きこむ戦争になった要因、ならびに大戦の全容や影響について考える。	●	●	
		34第一次世界大戦		●		●
	8	35ロシア革命とシベリア出兵	・ソヴィエト政権が人々から支持され革命が成功した背景ならびにその経過について考える。 ・ロシア革命が世界に与えた影響を考える。	●	●	
		37ヴェルサイユ体制とワシントン体制	・大戦後、ヴェルサイユ体制とワシントン体制という新たな国際秩序が構築された目的について考える。	●	●	
	9	38西アジア・南アジアの民族運動	・第一次世界大戦後にアジア各地で民族運動が活発になった要因について、とりわけ東・東南アジアの事例については、日本との関わりを踏まえて考える。	●		●
		39東アジア・東南アジアの民族運動		●		●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
		40戦間期の欧米	・戦間期の欧米諸国の動向、とりわけドイツのヴァイマル共和国について考える。	●		●
		第6章 経済危機と第二次世界大戦	【第3回考査】			
	10	43世界恐慌	・世界恐慌が各国の経済や人々の生活に与えた影響について、考える。	●	●	
		44ファシズムの時代	・ヒトラーのひきいるナチ党が何を主張しどのようにして政権をにぎったのかについて、考える。	●		●
						
		47第二次世界大戦とアジア太平洋戦争	・ヨーロッパとアジアそれぞれにおける戦争がどのように結びついたのかについて、考える。	●		●
	11	50国際連合と戦後世界	・第二次世界大戦後、人々はどのような世界をつくりあげようとしていたのか、国際連合の設立目的や組織の概要を踏まえて考える。	●	●	
						
		51戦後と占領の始まり	・連合国が行った日本占領のねらいについて、考える。	●		●
		53冷戦の開始	・冷戦のきっかけと展開について考える。	●		●
		第3編 グローバル化と私たち	【第4回考査】			
		第7章 冷戦と脱植民地化				
	12	55冷戦対立の推移	・1950年代以降に拡大した軍事協力体制および軍拡競争について、考える。	●		●
		56植民地の独立と第三世界の出現	・独立後の旧植民地諸国が、国際社会においてとった動きについて考える。	●	●	
		57米ソ両陣営の動揺	・各地での代理戦争を経て、米ソの外交姿勢がどのように変化していったのか、考える。	●		●
		第8章 多極化する世界				
	1	59石油危機と世界経済	・石油危機と変動相場制実施、アジアの経済成長について考える。	●		●
		60緊張緩和から冷戦の終結へ	・米ソ対立がどのように終結へ向かっていったのかについて、考える。	●		●
	2	61地域協力の進展	・ヨーロッパやアジアの経済協力について考える。	●	●	
		第9章 グローバル化と現代社会	【第5回考査】			
		63冷戦体制の終結	・冷戦後の世界の動向と民族対立について考える。	●	●	
	3	64地域紛争と世界経済	・グローバル化がすすむなかで各地域の政治経済に生じた変化について、考える。	●		●
		65グローバルな認識へ	・今日の世界が直面する諸課題について、地域統合やグローバル化などの観点から考える。	●		●
		 				

1 この科目の構成について

教科	地歴公民	科目	歴史総合			単位	2	単位
対象コース	進学・総合・美術	コース	対象クラス	1 年	2～7 組			
使用教科書	詳述歴史総合（実教出版）							
使用副教材	詳述歴史総合 マイノート 新課程版（実教出版）							

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

国際関係から社会の編成、日常生活の具体的な姿や生産のあり方のなかから、世界と日本の歴史的なつながりを学ぶ。この過程は、「他者」の発見「他者」への共感、「他者」との共生の歴史を学ぶということでもある。このとき、「問い」を立てるという姿勢が大切である。「答え」を学ぶのではなく、歴史に向かって問いかける姿勢を身につけて欲しい。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業でパワーポイントを用いて説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、歴史の流れを把握することが大切です。板書事項や重要語句を正確にワークノートに記述することが求められます。

(2) 家庭

ワークノートは、教科書に準拠して作成してあります。予習として教科書の太文字を中心に目を通してきて下さい。家庭では地図や年表と照らし合わせることで、より深く近代史を学習することができます。また、テレビや新聞など各種の情報源がありますので、それらを活用することで知識の幅が広がり、深さも増すことでしょう。もし可能であればインターネット等を活用することもよいでしょう。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価 規準 (内容の まとめ ごと)	A 歴史の扉 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。	近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。	歴史の扉について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。
	B 近代化と私たち 18世紀アジアの社会経済、工業化と世界市場の形成、立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容、そして現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解している。	18世紀アジアの社会経済、工業化と世界市場の形成、立憲体制と国民国家の形成、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容、現代的な諸課題の形成に関わる近代史について、諸事象の背景や原因、結果や影響を関連づけ多面的・多角的な考察・表現をしている。	近代化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。
	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち 総力戦と第一次対戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の拡大、国際協調体制の動揺、第二次対戦後の国際秩序と日本の国際社会復帰、そして現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。	総力戦と第一次対戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の拡大、国際協調体制の動揺、第二次対戦後の国際秩序と日本の国際社会復帰、そして現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について、諸事象の背景や原因、結果や影響を関連づけ多面的・多角的な考察・表現をしている。	国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。
	D グローバル化と私たち 国際政治の変容、世界経済の拡大と経済成長下の日本社会、市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題、そして現代的な諸課題について歴史的経緯を踏まえ理解している。	国際政治の変容、世界経済の拡大と経済成長下の日本社会、市場経済の変容と課題、冷戦終結後の国際政治の変容と課題、現代的な諸課題について、諸事象の背景や原因、結果や影響を関連づけ多面的・多角的な考察・表現をしている。	グローバル化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。
評価 方法	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	世界史のなかの宗教	・世界三大宗教の概要とその分布について学ぶ。	●		
		第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 イントロダクション	・アジア諸帝国と海域世界が繁栄し、ユーラシア規模の大交易時代が到来したことについて、考える。	●	●	●
		17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出	・中世ヨーロッパの秩序が崩れていくなかで、イタリア戦争・宗教改革・三十年戦争などをへて、主権国家体制が確立された経緯と意義について、考える。	●		●
		5 1ヨーロッパの海外進出と市民社会				
	5	第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 6 イギリス産業革命	【第1回考査】 ・産業革命がなぜイギリスでおこり、どのように展開したのかについて考える。	●	●	●
		7 アメリカ独立革命	・アメリカが独立をめざすこととなった背景について、考える。	●	●	
		8 フランス革命とナポレオン	・フランス革命の過程で変化した政治体制について、考える。	●		●
		6 9 ウィーン体制	・ウィーン体制が誕生した背景ならびにその後いかに維持されたのかについて、考える。	●	●	●
	6	10 19世紀のイギリスとフランス	・19世紀後半の英仏において、政治的経済的にどのような改革がなされたのかについて考える。	●	●	
		11 イタリア・ドイツの統一	・イタリアとドイツの統一がどのような過程をたどったものであったのかについて、考える。	●	●	●
			【第2回考査】			
		12 東方問題と19世紀のロシア	・ロシアの南下政策に対し、ヨーロッパ諸国がどのような対応をとったのかについて考える。	●	●	
	7	13 アメリカの発展と分裂	・領土拡大の過程で、アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのか、独立後のアメリカ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争について考える。	●		●
		道徳				
		14 世界市場の形成	・産業革命の進展により、パクス＝ブリタニカが形成され世界の緊密化がもたらされたことについて考える。	●		●
		第3章 アジアの変容と日本の近代化 15 イスラーム世界の改革と再編	・イスラーム世界がヨーロッパ諸国の進出に対しどのように対応したのかについて、考える。	●	●	
	8	16 南・東南アジアの改革と再編	・ヨーロッパ諸国が南アジアや東南アジアにどのように進出したのかについて、考える。	●		●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	9	17アヘン戦争の衝撃	・アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応をせまられたのか考える。 ・アヘン戦争とインド大反乱について考える。 ・日本の開国とその影響について考える。	●		●
		第4章 帝国主義の時代 26帝国主義と世界分割	・欧米諸国の帝国主義により、世界がどのように分割されたのかについて考える。 ・アフリカと太平洋の分割について考える。	●		●
		27帝国主義期の欧米社会	・19世紀後半から20世紀はじめにかけての欧米社会で生じた変化について、考える。	●	●	
		32アジア諸民族の独立運動・立憲革命	・20世紀はじめにアジア各地でおこった運動の共通点と相違点について、考える。			
		第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	【第3回考査】			
	10	33緊迫する国際関係 34第一次世界大戦	・第一次世界大戦が世界を巻きこむ戦争になった要因、ならびに大戦の全容や影響について考える。	●	●	●
		35ロシア革命とシベリア出兵	・ソヴィエト政権が人々から支持され革命が成功した背景、ならびにその経過について考える。 ・ロシア革命が世界に与えた影響を考える。	●	●	
		37ヴェルサイユ体制とワシントン体制	・大戦後、ヴェルサイユ体制とワシントン体制という新たな国際秩序が構築された目的について考える。	●	●	
		38西アジア・南アジアの民族運動 39東アジア・東南アジアの民族運動	・第一次世界大戦後にアジア各地で民族運動が活発になった要因について、とりわけ東・東南アジアの事例については、日本との関わりを踏まえて考える。	●		●
		40戦間期の欧米	・戦間期の欧米諸国の動向、とりわけドイツのヴァイマル共和国について考える。	●		●
11	第6章 経済危機と第二次世界大戦 43世界恐慌	【第4回考査】 ・世界恐慌が各国の経済や人々の生活に与えた影響について、考える。	●	●		
	44ファシズムの時代	・ヒトラーのひきいるナチ党が何を主張しどのようにして政権をにぎったのかについて、考える。	●		●	
	道徳					
	47第二次世界大戦とアジア太平洋戦争	・ヨーロッパとアジアそれぞれにおける戦争がどのように結びついたのかについて、考える。	●		●	
	50国際連合と戦後世界	・第二次世界大戦後、人々はどのような世界をつくりあげようとしていたのか、国際連合の設立目的や組織の概要を踏まえて考える。	●	●		
		道徳	16 平和と公正をすべての人に			

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	1	51戦後と占領の始まり	・ 連合国が行った日本占領のねらいについて、考える。	●		●
		53冷戦の開始	・ 冷戦のきっかけと展開について考える。	●		●
		第3編 グローバル化と私たち				
		第7章 冷戦と脱植民地化				
		55冷戦対立の推移	・ 1950年代以降に拡大した軍事協力体制および軍拡競争について、考える。	●		●
	2	56植民地の独立と第三世界の出現	・ 独立後の旧植民地諸国が、国際社会においてとった動きについて考える。	●	●	
		57米ソ両陣営の動揺	・ 各地での代理戦争を経て、米ソの外交姿勢がどのように変化していったのか、考える。	●		●
		第8章 多極化する世界				
		59石油危機と世界経済	・ 石油危機と変動相場制実施、アジアの経済成長について考える。	●		●
		60緊張緩和から冷戦の終結へ	・ 米ソ対立がどのように終結へ向かっていったのかについて、考える。	●		●
	3	61地域協力の進展	・ ヨーロッパやアジアの経済協力について考える。	●	●	
		第9章 グローバル化と現代社会	【第5回考査】			
		63冷戦体制の終結	・ 冷戦後の世界の動向と民族対立について考える。	●	●	
		64地域紛争と世界経済	・ グローバル化がすすむなかで各地域の政治経済に生じた変化について、考える。	●		●
		65グローバルな認識へ	・ 今日の世界が直面する諸課題について、地域統合やグローバル化などの観点から考える。	●		●
		11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナースHIPで目標を達成しよう				

1 この科目の構成について

教科	地理歴史科	科目	地理総合	単位	2	単位
対象コース	一貫、進学、総合、美術 コース		対象クラス	1 年	1～7 組	
使用教科書	新地理総合（帝国書院）新詳高等地図（帝国書院）					
使用副教材	新地理総合ノート（帝国書院）					

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか 私達の世界は、どのような資源や産業の生産活動により成立しているのでしょうか。そして、その生産活動は、どのような変化を遂げるのでしょうか。資源・産業に関する知識を深め、今までの変化、これからの変化を読み取る力を身につけて下さい。私達の世界は、さまざまな指標を用いることにより、さまざまな地域に区分されています。指標である自然・産業・人種・民族・国家に関する知識を深め、地域の特色及び地域間に共通するもの・相違するものを把握する力を身につけて下さい。 私達の世界の現在と未来を正しく把握するために、情報を集める力・情報を分析する力を身につけて下さい。
学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか (1) 学校 1) 地理情報の活用方法、世界観の変化、地球上の位置、時差、世界図の図法・種類、一般図と主題図、地域調査を学習する。 2) 地形の種類・成因・分布、陸水と海洋、大気循環、雨温図とハイサーグラフ、世界の気候区分・植生・土壌を学習する。 3) 日本の地形・気候、自然災害と防災、オゾン層の破壊・地球温暖化・森林破壊・砂漠化・酸性雨等の環境問題を学習する。 4) 大学共通テスト対策として、重要語句の整理と深い理解が必要です。 (2) 家庭 1) 復習は必要です。授業で理解できなかった用語や内容はその日のうちに教科書などで確認しておきましょう。 2) 新聞やテレビのニュースを必ず見ましょう。問題を解く際に力強い味方になります。常識で解ける問題もある。 3) 模試の見直しの際、模範解答の解説書を熟読し、「正解の根拠・地図や統計読解のテクニック」を理解し覚えましょう。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。	世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価方法	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第1章 自然環境 序節 地球環境と人間	1 さまざまな地図 2 時差 【第1回考査】	●	●	●
	5	1 地形 	1 大地形と人々の生活 2 変動帯と人々の生活 3 安定地域と人々の生活 4 河川がつくる地形と人々の生活 【第2回考査】	●	●	●
	5		地球上には、高く険しい山脈や広大な平原、深い谷などの多様な地形がある。人々はこうした地形とどのように関わり合っているのだろうか。そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。	●	●	●
	6					
	7	2 気候  	1 気温・降水と人々の生活 2 大気大循環と人々の生活 3 世界の植生と気候区分 4 各気候帯での人々の生活	●	●	●
	8		気温や降水、風などの気候要素は場所によって異なる。人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているのだろうか。そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか。			
	9		【第3回考査】	●	●	●
	10	3 世界の言語・宗教と人々の生活	1 世界の言語と人々の生活文化 2 世界の宗教と人々の生活文化	●	●	●
	11	4 地球環境問題 	1 多様な地球環境問題 2 熱帯林の破壊への対策 3 地球温暖化への対策 私たちが住む地球の各地では、人間の経済活動などにより、さまざまな地球環境問題が生じている。世界ではどのような地球環境問題がみられ、どのような取り組みが行われているのだろうか。 【第4回考査】	●	●	●
	12	5 人口問題	1 世界の人口 2 発展途上国と先進国の人口問題 3 地域で異なる人口問題への取り組み 世界の人口分布には偏りがあり、人口増加の傾向や人口構成も、国や地域によって異なっている。世界には、国や地域によってどのような人口問題があり、どのような対策が行われているのだろうか。	●	●	●
	12	6 日本の自然環境	1 日本の地形 2 日本の気候 世界や日本の各地で発生する自然災害は、その地域の地形や気候といった自然環境と密接に結び付いている。日本の地形や気候には、どのような特徴があるのだろうか。	●	●	●
3	1					
	2	7 地震・津波と防災  	1 地震・津波による災害 2 地震・津波の被災地の取り組み 変動帯に位置する日本は、数多くの地震によってさまざまな被害を受けてきた。地震や津波は、どのような被害をもたらすのだろうか。また、地震や津波の発生に備えて、どのような取り組みが必要なのだろうか。 【第5回考査】	●	●	●